



大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 4343 号 2018.4.27 発行

花谷寿人の体温計 こころの居場所

毎日新聞 2018年4月26日

心根の優しさ。それが笑顔に表れている。マユミは高校3年生。小学生の時から大阪の「こどもの里」で暮らしていた。

こどもの里はかつての日雇い労働者の街、釜ヶ崎にある。誰でも無料で利用できる。子供の居場所としてだけでなく、生活が苦しい親の支援もしている。館長の荘保（しょうほ）共子さんが前身の「子どもの広場」を設立して40年が過ぎた。

マユミは里を追ったドキュメンタリー映画「さとにきたらええやん」の主人公の一人だ。ここで料理や裁縫を学んだ。体調が悪い母親と一緒に暮らせない。寂しくて、何度涙を流したことか。

里ではみんな「しんどさ」を抱えている。軽度の知的障害で劣等感に悩む中学生のジョウ、発達障害のある5歳のマサキ……。そこには人間同士のぶつかり合いから生まれた絆がある。2016年公開の映画は反響を呼び、各地の団体による上映会が続いている。

世の中は好景らしい。昨年6月に厚生労働省が公表した調査では貧困状態にある子供の割合は7人に1人。前回12年の調査より改善した。次回はさらによくなるかもしれない。だからなのか、あれほど政府がアピールしていた子供の貧困対策がほとんど聞こえなくなった。

だが、ひとり親世帯の生活は依然厳しい。地道に支えているのは「こどもの里」のような民間の名もなき人たちだ。

同様の場所は首都圏にもある。見た目にはすぐに分かりにくいだが、その日の食事をカップ麺で済ませる子供が当たり前にいる。そんな現場に行くと、統計に表れない現実を目にする。

こどもの里のマユミが老人ホームに就職が決まり、旅立つ時が来た。母親代わりの荘保さんのお別れの会で伝えた。「あったかい家庭を作ってほしい。あんたならできる」。マユミは笑顔で涙を浮かべた。つらい時に帰ることができる「実家」があることはどれほど心強いだろう。

もうすぐこどもの日。必要なのは、お金や食事ばかりでない。映画の中で、たくましく成長する彼らを地元出身のラッパーの歌が励ます。「♪心とフトコロが寒いときこそ胸をはれ」

心の寒さを温めてくれるのは、自分のことを大事に思ってくれる大人の存在なのだ。（論説委員）

障害者の企業雇用率2.2%に 「精神障害も定着」が課題

Sankeibiz 2018年4月26日

障害者の働く場が4月から広がっている。企業や自治体に雇用を義務付けた法律の改正で、働く人に占める障害者の割合（雇用率）が引き上げられ、新たに精神障害も対象になった。一方で職場に定着する人はまだ少なく、個々の状態に応じ、長く働き続けられる環

境づくりが求められそうだ。

障害者雇用促進法が定める雇用率は4月以降、企業が2・2%、国や地方自治体が2・5%になった。これまでより0・2ポイントずつアップし、従業員千人の企業では障害者が22人の計算だ。基準を満たさない企業は厚生労働省所管の独立行政法人に納付金を支払うことになっている。雇用率は平成32年度末までに、さらに0・1ポイント引き上げられる。

民間企業で働く障害者は昨年6月1日時点で前年比4・5%増の約49万5千人に上る。

内訳は身体障害が約33万3千人で最も多く、知的障害が約11万2千人、精神障害が約5万人。雇用率を算定する場合、これまでは身体、知的の障害者手帳を持つ人が対象だったが、4月から精神障害（発達障害や高次脳機能障害を含む）が加わった。

だが課題も多い。厚労省の25年度調査によると、精神障害者の平均勤続年数は4年3カ月で、他の障害より短い（身体は10年0カ月、知的は7年9カ月）。躁鬱（そううつ）病や統合失調症といった精神疾患では症状の個人差や体調の波が大きく、薬の副作用で長時間働くのが難しい人もいる。

厚労省は30年度に障害福祉サービスを拡充。障害者が就労支援事業所などを経て就職した場合、担当者が遅刻や欠勤、薬の飲み忘れがないか確認し、企業訪問や本人との面会で環境変化による悩みを把握する。職場の定着率が上がれば、事業所への報酬が加算される。

障害者の自立を後押し 秋田市の「暮らしての会」が講演会

秋田魁新報 2018年4月26日

障害者の自立支援に取り組む秋田市の団体「暮らしての会」が21日、同市上北手の遊学舎で「自立生活を考える」をテーマに講演会を開いた。障害者とその家族ら約50人が、親元や施設から離れて自立する障害者の経験談に耳を傾けた。

同会代表の菅原睦実さん（40）＝会社社長、同市新屋＝は、出生時に頸椎（けいつい）損傷を負った影響で車いす生活を送りながら、障害者の訪問介護と相談支援事業に取り組んでいる。「障害者が住みやすい地域づくりを進めたい」と、今年3月に勝平養護学校高等部（現秋田きらり支援学校）の同級生ら5人で会を立ち上げた。

旧優生保護法を問う 「優生思想、今もなお」 51～83年、県内でも96件実施 ハンセン病研究者「さらに調査を」／富山

毎日新聞 2018年4月26日

歴史資料から旧優生保護法の背景について解説する藤野豊教授＝富山市総曲輪2の本願寺派富山別院で、青山郁子撮影

旧優生保護法（1948～96年）下で障害者らへの強制的な不妊手術が繰り返された問題は、県内でも51～83年に96件実施されたことが県衛生統計年報の記録から判明した。障害者の人権を無視した問題の背景に潜む「優生思想」について学ぼうと、ハンセン病研究に詳しい藤野豊・敬和学園大教授（65）＝日本近現代史＝の講演会「ハンセン病と優生思想～家族被害および強制断種」が、富山市内で開かれた。藤野教授は「出生前診断や、（障害者19人が殺害された）相模原事件などで優生保護法は今も生きていることを重く考えるべきだ」と訴えた。

【青山郁子】



旧優生保護法 強制不妊手術 新たに3人分のカルテ見つかる／茨城

毎日新聞 2018年4月26日

旧優生保護法（1948～96年）下で不妊手術を受けたとみられる障害者ら19人の名前が書かれた資料が県立歴史館（水戸市緑町）で見つかった問題で、県少子化対策課は25日、名前が一致するカルテが新たに3人分見つかったと発表した。これで名前が一致したカルテは計11人分となった。

11人は男性6人、女性5人で、年齢は54、55年度当時20～41歳。カルテはいずれも、手術をしたとされる県立内原精神病院の一部を引き継いだ県立こころの医療センター（笠間市）の倉庫に保管されていたという。名前が一致した人が同一人物かや、実際に手術を受けたかについて、さらに調査を進めるといふ。【吉田卓矢】

子どもへの不妊手術を...旧優生保護法 ろう学校校長 テレ朝ニュース 2018年4月26日
静岡県では戦後、当時の「ろう学校」、現在の聴覚特別支援学校の校長が耳の不自由な子どもに不妊手術を受けさせるよう保護者に勧めていたことが分かりました。

旧優生保護法では、強制不妊手術の対象として「遺伝性の難聴またはろう」が挙げられていました。ろうあ連盟の調査で、1950年ごろに静岡県のろう学校に通っていた聴覚障害者らが親から聞いた話として次のように証言しました。

黒沢シン子さん（87）：「PTAの時に強制不妊の話が校長先生がされた」

静岡県聴覚障害者協会・小倉健太郎事務局長：「校長がPTAの集まりの時にそういう話をしたということですか？」

黒沢シン子さん：「（不妊）手術をするように言われた。子どもを産みたい場合は（結婚相手を）紹介しませんと言われた」

大橋よしさん（82）：「産んだ子どもにとって、親の耳が聞こえないのは可哀想だと校長が言ったと（母に）聞いた」

今回の調査に参加したのはいずれも不妊手術を受けていない人たちで、今後、手術を受けた人への調査も検討されています。

被後見人の財産着服疑い 佐賀の社会福祉士 西日本新聞 2018年04月26日

公益社団法人佐賀県社会福祉士会は26日、同会所属の30代男性が、成年後見人として管理していた被後見人ら5人の銀行口座から計2755万円を着服していたと発表した。刑事告発する方針。

同会によると、男性は昨年11月から今月上旬にかけて、佐賀県や福岡県の男女5人の銀行口座から複数回にわたって金を引き出した。男性が経営する障害者施設の経営が悪化しているとの情報が同会に寄せられ、被後見人らの預金状況を調べ発覚した。

男性は「施設の資金繰りに困り、流用した」と話しているという。

ドイツを通して我が国の外国人介護士を考える 結城康博 / 社会保障論

シノドスジャーナル 2018年4月26日

はじめに

周知のとおり日本の介護現場は、人材不足が顕著となり深刻な状況である。とくに、雇用状態が良好であるため、さらなる人材不足が加速化しており、介護施設ではニーズがあるものの、入居者への対応がかなわずベットを空けた状態となっているケースが珍しくない。そこで、大きな期待が寄せられているのが外国人介護士の採用である。これまでEPA（経済連携協定：Economic Partnership Agreement）による外国人介護士受け入れ実績はあったものの少数の枠組みであった。しかし、2017年11月1日の「外国人の技能実習の適正な実施及び技能実習生の保護に関する法律」（技能実習法）の施行によって、外国人技能実習制度の対象職種に介護職種が追加された。これによって多くの外国人介護士が日本で働

く可能性が高くなる。

その意味で、日本よりも先行して介護保険制度を実施しているドイツの現場を視察することで、筆者は外国人介護士の雇用において何らかのヒントが得られるのではないかとリサーチしている。ドイツも深刻な介護士不足にあり、外国人介護士の雇用を積極的に推し進めている状況だからだ。

もっとも、今回で10回目の訪独とはいえ（2018年2月18日～2月24日）、毎回、一週間の、現場を垣間見ながらの関係者ヒヤリングとリサーチであるため、ドイツの介護事情を十分に把握することは難しいことをご理解いただきたい。また、個人情報の関係で特定の事業所や人物の写真等は掲載できないことを申し述べておく。

1. ドイツでは「介護」職は不人気

現地の視察コーディネーターや介護事業所関係者に聞いたのだが、一般的にドイツの雇用情勢は良好であり、職種を選ばなければ誰でも「職」に就けるという状況である。統計的にも東西ドイツ統一以来、もっとも失業率が低下し3.6%だ（高田創「ドイツは経済が好調・低失業率でも賃金があがらない」みずほ総合研究所2017年12月21日）。このような経済情勢下において、EU圏内外からドイツに多くの短期労働者が出稼ぎにくる傾向にある。また、ドイツ国内で常識化していることは、ドイツ人にとって「介護」職は不人気ということだ。とくに、このところ経済情勢が良好であるため、あえて「介護」の仕事に就く人が減少している。ある介護関係者が雑誌記事を見せてくれたのだが、「介護施設では人員不足が顕著で、排泄介助において何時間も便器の上に放置させていたことが問題となった」との内容であった。このことから介護現場の深刻さが窺える。

2. 在宅の外国人介護士をコーディネートする介護事業所

・コーディネートする事業者

筆者は、今回、2回目となる、外国人介護士をコーディネートする事業所を訪問をした。代表者の方は、私が3年前に訪ねた際のことを覚えており、丁寧に対応してくれた。ドイツでは在宅で介護保険サービスを利用できるが、必ずしも十分なサービスとはいえない。とくに、介護度が重くなると公的サービスのみでは立ち行かず、家族介護が欠かせない状況という。しかし、息子や娘といった家族は、日中、働いたり、独居高齢者も少なくなく、何らかの支援が必要だ。

そこで、一部、外国人の家政婦（介護士）を雇うことで、重い要介護度であっても家族介護に代わって支援を受け、在宅介護を可能にするケースが増えているという。取材した介護事業所は非常に良心的で、質の高い外国人介護士をコーディネートしている。

こちらでは基本、ドイツ語を話せる家政婦（介護士）しか紹介しないという。彼らは立場上家政婦であるが介護の仕事をする。その肩書は日本語で翻訳しにくいのが、住み込みで約1か月間お世話をする保険外サービスである。1か月約2000ユーロで利用できる（20万円弱：現在、円換算にすると26万円となるが、ドイツでは100ユーロが1万円の感覚である、1ユーロが100円の貨幣価値である）。

要介護者や障害者などの年金給付としては、ケースにもよるが1000ユーロ以上の支給があり、場合によっては介護保険サービスを利用せず全額現金給付のサービスを受けることもある。この場合、年金と現金給付を併せると2000ユーロの金額を支払うことが可能だ。

・東欧から来た外国人家政婦（介護士）

写真1：障害者が共同で暮らす住宅
実際、重度の障害者が暮らす共同生活住宅（写真1）に派遣されている、東欧から来た外国人家政婦（介護士）に話を聞いた。その介護士は男性で、以前は自国でサラリーマンをし



ていたという。ドイツ語が話せるので、家政婦（介護）の仕事をするために出稼ぎに来ているそうだ。一か月間住み込みで 24 時間体制。業務は買い物、洗濯、食事づくり、掃除、介助などをこなす。基本、夜は眠れるが、場合によっては「介助」する時間もあるという。自国の医師給与と比べても、ドイツに来て家政婦（介護士）として働くほうが 3~4 倍よい賃金が得られるという。1 か月間ドイツで働いて 1 か月間自国に戻り、再度、ドイツに来て働くのが一般的だという。そのため 2 人組で交代しながら派遣されるケースもあるという。このようなサイクルによって仕事と休日のバランスを維持しているとようだ。

ただ、ドイツ語が話せる能力がないと、ドイツで家政婦（介護士）として働くことは難しいということであった。

2. 外国人介護士を養成する介護施設

写真 2 : 外国人介護士の養成・受け入れを押し進める介護施設

・移民を受け入れる

筆者は、ミュンヘン市内の介護施設を訪ねた（写真 2）。この介護施設は、外国人介護士

を養成しながら介護施設事業を展開している。一般的にドイツ人が介護の仕事に従事するケースは、マネジメントやリーダーなど管理職的な介護士が多い。視察した介護施設では、7 割が外国人介護士で、3 割がドイツ人介護士であった。

施設では、マダガスカル、北アフリカ、アフガニスタンなど多くの外国人介護士を養成している。在籍するのは基本的に移民もしくは認定が降りた難民である。ドイツ連邦政府では、認定が降りた難民には政府から一定のドイツ語研修の機会が与えられ、費用も公費で保証されている。そのため、この介護施設の養成所に入学する外国人は一定のドイツ語力を身につけた外国人である。

・1 年間の介護士養成

外国人介護士は、1 か月間の半分は介護施設で実習という形態で介護に携わり（写真 3）、残り半分は授業形式で講義を受けながら 1 年間のプログラムで介護士としての初期段階の資格（ヘルパー）を身につける（休日あり）。1 年間のプログラムがしっかりと整備されているため、プロの介護士を育てることができると担当者は話していた。その後、さらに上級の資格を取得したいならば、働きながら学校に通い 3 年間のプログラムが用意されているという。

写真 3 : 同介護施設における入浴機器

この外国人介護士には養成中から給与が与えられる。年収ベースでの確認はできなかったが、養成中は毎月 900 ユーロ、資格取得後は 1400 ユーロの賃金体系であるという。さらに、3 年間の上級資格を有すれば毎月 2000 ユーロ程度の賃金水準になるようだ。ただ、ミュン



ヘン市内は家賃が高いため、施設側は都市部近郊にアパートを借り上げて住ませているという。

・外国人介護士に頼るしかない。

訪問した介護施設の責任者によれば、外国人介護士の採用は 30 年前から導入しており、移民の方などを受け入れているという。ただ、ここ 10 年間は、かなりの人手不足であるため、外国人介護士への採用に力を入れているということであった。



もはや、ドイツ人に介護の仕事が不人気である以上、外国人への養成および採用に力点を置かなければ、施設経営は難しいと話す。しかも、一部のドイツ人の介護士に比べれば、北アフリカ人などの介護士のほうが丁寧な対応をするなど、高齢者にも評判がいい。移民もしくは難民でドイツに来る人々は、高齢者を敬う気持ちがあり、多少、言葉がドイツ人よりも不都合であっても、ケアの面では評価が高いようだ。

3. 若い難民を支援する事業団体

筆者は、若い難民を支援する団体を訪問して、外国人の就労支援について話を聞いた。この団体は、ドイツ語を取得した難民に対して職業訓練校や企業実習などの橋渡し機能を果



たす機関であり、若者難民を手助けしている（写真4）。活動費は市役所から補助金助成を受けている。主に、ソーシャルワーカーや社会教育主事の方々が支援に携わっているようだ。

写真4：若い難民者の支援する団体のセミナー（就労支援）

難民は経済的難民と政治的難民に分かれるが、戦争などで逃げてくる政治的難民は、長期間の滞在が許される。一方で、

経済的難民の場合は強制帰国が課せられる場合がある。ただし、その判断が政府から決定されるまでは滞在が許されるので、少なくとも2年程度の滞在が許される。したがってその間、何らかの職業に就きたい意向がある。

多くの若い難民は、IT系の職、サービス業などへの就労を希望する。その意味では、介護職に就く人は少ないようだ。とくに、シリアなどの難民者は基礎学力も高いためドイツ語取得力も高く、IT系の職に就く機会が多い。しかし、基礎学力が低い国から来る難民は、ドイツ語取得速度も鈍くドイツ人に不人気の職に就く傾向にある。

4. ドイツから学ぶもの

数年、ドイツの介護現場を視察しているが、年々、介護人材不足が深刻化している様相が窺える。日本と同様に自国の人々が介護職に就かなければ、外国人の採用に期待を託すしかない。その傾向は日本もドイツも同じである。

しかし、明らかに異なる点は、ドイツは移民政策導入の歴史が長く、どのように外国人労働者を受け入れるか、ノウハウが蓄積されている点である。しかも、ドイツ語教育（言語研修）は、公費でしっかりと保証しているため、それなりの受け入れ態勢が国家事業として整備されている。その意味で、ドイツにおいて外国人介護士は、しっかりと専門知識を身につける養成を受けることができる。しかも、ドイツでは移住者も本人が望めば長期的に滞在も可能であり、ドイツ人と同様の権利が保障されている。

一方で、日本の場合は、技能実習制度では公費負担は軽減されており、日本語教育などは送り出しおよび受け入れ機関の民間団体に託されている。外国人労働者への支援は、その財政負担が不安定である。しかも、現在、最長5年という期限付きの滞在しか認められていない。

まとめ

その意味では、ドイツでは外国人を受け入れるのは、それなりの覚悟をもって対応している。対して日本では「ご都合主義」的な側面で、外国人介護士を受け入れている傾向にある。無論、外国人介護士は、日本人介護士よりも熱心で優秀な人も多い。しかし、そのような優秀な人材であればあるほど、日本以外の有利な国へ働きに行く傾向は無視できない。



今後、日本で本格的に外国人介護士を受け入れるのであれば、しっかりと人権を保障し、それなりの対応をしなければ、外国人介護士の確保・定着も難しいと考える。

結城康博（ゆうき・やすひろ） 社会保障論 / 社会福祉学

淑徳大学総合福祉学部教授。淑徳大学社会福祉学部社会福祉学科卒業。法政大学大学院修士課程修了（経済学修士）。法政大学大学院博士課程修了（政治学博士）。社会福祉士・介護福祉士・ケアマネジャー。地域包括支援センター及び民間居宅介護支援事業所勤務経験をもつ。専門は、社会保障論、社会福祉学。著書に『日本の介護システム—政策決定過程と現場ニーズの分析（岩波書店 2011年）』『国民健康保険（岩波ブックレット No.787）』（岩波書店、2010年）、『介護入門—親の老後にいくらかかるか？』（ちくま新書、2010年）、『介護の値段—老後を生き抜くコスト』（毎日新聞社、2009年）、『介護—現場からの検証』（岩波新書、2008年）など多数。



視覚障害者向け「光の実験」 石崎喜治さん

毎日新聞 2018年4月26日

筑波大付属視覚特別支援学校（東京都文京区）の石崎喜治教諭（63）が、理科教育で著しい成果を上げた教員を表彰する「第49回東レ理科教育賞」で入賞した。視覚障害のある中学生に対する「光の実験」が評価された。

石崎さんは、光の明るさを音の高低に変換する「感光器」を利用。光源から出た光の進路に感光器を置く。生徒はピンを動かしながら、光が遮られて音が変わる位置を探し、下に敷いた紙に穴を開けていく。その穴をつなげば、直進する光の様子を指で触って確認できる。「生まれながら目が見えない生徒は、この実験で初めて光の直進を経験できる」と語る。

同校に赴任したのは1984年。当時は視覚障害者向けの物理実験は少なかったが、「生徒と対話しながら一つ一つ実験を考えてきた」。工夫を重ね、今では中学の物理分野で、できない実験はほとんどないという。大学で物理を専攻する卒業生もおり、「これからも新しい実験をつくっていきたい」と意気込む。【柳楽未来】

授産商品、販路拡大へ 冊子で就労支援事業所の作業紹介 / 愛媛

毎日新聞 2018年4月26日

愛媛県が作成した「い〜よグッズ 商品&事業所ガイド2018」=同県庁で、花澤葵撮影

県は、県内の障害者が就労支援事業所で作った商品や提供するサービスを紹介する「い〜よグッズ 商品&事業所ガイド2018」を2000部作成した。受注や販路拡大につなげようと官公庁や民間企業などに配布、県のホームページでも公開している。

冊子では、66事業所が販売するクッキーや野菜、木工製品などの商品のほか、清掃やホームページ制作など提供する作業内容を紹介。各事業所の職員が顔写真付きで自慢の商品をアピールしている。

また、掲載を希望した県内155事業所の所在地や連絡先、取り扱い商品などの一覧もある。巻末では、2017年に2カ月限定で大街道商店街内にオープンした障害者が作った製品を取り扱う「プラスニエヒメ」や、大型ショッピングセンターで開催している「青い鳥マーケット〜農福連携篇（へん）」などの取り組みも紹介している。

県障がい福祉課の高村謙介主事は「授産商品は販路や受注の機会が限られている。ガイドを手に取り、実際に発注してもらい、商品の良さを知ってほしい」と呼びかけている。【花



澤葵】

大泉洋主演で「こんな夜更けにバナナかよ」映画化 難病患う実在の人物に



シネマトゥデイ 2018年4月23日
実話に基づく映画『こんな夜更けにバナナかよ 愛しき実話』で共演する三浦春馬、大泉洋、高畑充希

幼い頃に難病にかかり 24 時間体制の介助が必要な体となった鹿野靖明さんとボランティアたちの交流を描いたノンフィクション小説「こんな夜更けにバナナかよ 筋ジストロフィーとボランティアたち」

（渡辺一史著）が、大泉洋主演、高畑充希&三浦春馬の共演により映画化されることが決定した。12 歳で筋肉が徐々に衰える難病・筋ジストロフィーを発症し、車いすの人生を送る鹿野さんにふんする大泉は『障がいがあるから』と遠慮することなく、1 人で生活して、仕事もして、喧嘩もして、恋もして、どこまでも対等に人と向き合い続けた鹿野さんの人生に強烈に惹かれました」とコメント。『ブタがいた教室』『ドルフィンブルー フジ、もういちど宙へ』などの前田哲がメガホンを取り、大泉と 2002 年公開の『パコダテ人』以来、約 16 年ぶりのタッグを組む。

本作は、1959 年に札幌市に生まれ、車いすの人生を“ワガママ”に生きた鹿野さんの物語。病院を飛び出し、自ら集めた大勢のボランティアや両親に支えられて生活する鹿野さん、彼が恋する新人ボランティアの美咲、その恋人で北海道の医学生・田中の三角関係、それに伴う大騒動、鹿野さんがどうしてもかなえない夢の顛末を描く。脚本は『映画 ビリギャル』などの橋本裕志が担当。オール北海道ロケで、5 月下旬から 7 月上旬にかけて撮影予定。

同じ北海道で生まれ育った大泉が鹿野さんにふんし、初めて車イスと介助を受ける役に挑戦。鹿野さんのボランティアとして参加し、心を通わせていく女子大生・安堂美咲に高畑充希、美咲の彼氏で医学生の田中久に三浦春馬が決定しており、3 人は本作が初共演となる。

脚本を読んだ大泉は鹿野さんの生きざまに衝撃を受けたと言い、「重い難病を抱えながらも、それを決してハンデとは捉えず、自ら沢山のボランティアを集め、自分のやりたいように『ワガママに』生き抜いた生涯。どんなに『ワガママ』を言っても周りから愛された続けた鹿野さんを、その理由を考えながら真摯にコミカルに演じられたらと思ってます」と意気込み。

高畑、三浦との共演にも「キラキラした若いお 2 人との共演も楽しみにしています」と期待を寄せており、「三浦くんの近くに居たら、イケメンが感染（うつ）るんじゃないかと思うので、なるべく三浦くんの至近距離にいようと思ってます」と大泉らしい愛嬌のあるコメントを寄せている。（編集部・石井百合子）

映画『こんな夜更けにバナナかよ 愛しき実話』は今冬全国公開

月刊情報誌「太陽の子」、隔月本人新聞「青空新聞」、社内誌「つなぐちゃんベクトル」、ネット情報「たまにブログ」も



大阪市天王寺区生玉前町 5-33 社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所発行